



顎関節症は顎の関節や、顎を動かす筋肉に異常が起こり「あごが痛い」「口が開きにくい」「音がする」「物がかみにくい」といった症状が現れる病気です。軽い症状は自然に治ることも多いです。生活に支障がある場合は受診する方がいいでしょう。

開口量四センチ以下の場合、一般的に開口障害があると考えます。関節の骨の間にある関節円板というクッションが前に

## ③4 顎関節症(歯科口腔外科)

顎関節症の症状や治療の説明に使われる骨の模型＝名古屋市中区の中日病院で




ずれて戻らない時にみられることが一番多いです。

関節雑音には二種類あります。口の開閉時に「カックン」と音がするものは、関節円板が前に

ずれている状態から戻ったり、ずれたりする音。

「シャリシャリ」「グニユ」という音は関節円板や骨に変形があり、すれ合う音です。多くの場合、関節雑音は痛みを伴う場合以外は治療の必要はありません。

顎関節症はかみ合わせ、くいしばり、歯ぎしり、ストレスなど多くの原因が複合して生じます。顎の動き、痛みの種類と部位、関節雑音、かみ合わせなどで総合的に診断し、必要に応じてエ

 中日病院 名古屋市中区丸の内3の12の3。 中日病院 052(961)2491

ックス線撮影、磁気共鳴画像装置(MRI)でも診査します。

治療はストレッチ運動、くいしばりをなくす生活指導、スプリント(口内装置)、鎮痛剤投与など。専門医による関節内洗浄、関節鏡治療、手術などが必要な場合は少ないです。

(新美敦歯科口腔外科部 長・談)

# 開口量4センチ以下は障害